

ふわっとことばをつかおう

鳴門西小学校 2年 うめ本 さ月

「じゃま。」

これは、わたしが言ってしまった『ちくつとことば』です。外に
いこうと思ったときにドアのそばに男の子がいて、つい言って
しまいました。けれど、このことばが『ちくつとことば』になるこ
とを学校のじゅぎょうで知りました。言われていやな気持ちに
なる『ちくつとことば』、「なぜ、あのときあんなことばを言ってし
まったんだろう。言わなければよかった。」でも、言ってしまっ
たことばはかせません。その男の子に「ごめんね。」と今は言
いたいです。

そして、これからは、『ふわっとことば』を言いたいです。「あ
りがとう。」「おはよう。」「いっしょにあそぼう。」「ごめんね。」い
ろいろな『ふわっとことば』があります。声に出すとみんなここ
ろがあったかくなります。『ふわっとことば』がいっぱいの鳴門
西小にしたいです。

うれしいことば、いっぱい

黒崎小学校 2年 長え ここ音

国語の時間に「うれしいことば」のぺんぎょうをしました。それ
で、わたしも、今まで言われたことばを思い出してみました。
休み時間、わたしが、前回りができなくてがっかりしていると、な
月ちゃんとあゆはちゃんが、「もうすこしだよ。」と言ってくれまし
た。二人は、やさしいな。わたしも、見ならおうと思いました。

前、わたしが、かみの毛を切って、みんながどう言うかなあと、
ふあんでいたら、友だちや先生が、「かわいいね。」と言ってくれ
ました。なんだかとてもうれしくて、元気が出てきました。

ことばって、みんなをうれしい気持ちにさせることができです
ごいな。これからも、いっぱいうれしいことばをつかいたいな。

人としての生き方を学ぶ人権学習

左の作文には、小学校2年生の児童が人権学習を通して
学んだことで、自分自身をふり返り、自分にできることを実践し、誰
もが幸せに生きる世の中をつくることをめざして一歩踏み出す、
力強い姿勢が表れています。

言うまでもなく、人権学習は人としての生き方を学ぶ学習で
す。それは、単に知識を学ぶだけでなく、学んだことをどのように行
動につなげていくかということが大切です。学びに年齢は関係あ
りません。そのことを踏まえ、自分もまわりの人も大切にできる社会
を、生涯をととしていかにつくっていくかということが問われている
のです。

人権教育総合推進地域事業

鳴門市では、2015年度も昨年度に引き続いて、文部科学省
の研究指定を受け、「人権教育総合推進地域事業」を進め
てきました。これは、中学校区を単位として、地域全体で人権意
識を培い、人権尊重の精神を高めるために、学校や家庭、地
域が一体となった取組を市教育委員会との連携・協力の下で
推進するものです。

鳴門市では、この事業を市内の5つ、すべての中学校区で
実施しています。子どもから大人までが、ともに学べる学習機会の
充実を図って、今年度も人権フェスティバルを始め、特色ある取
組を行いました。

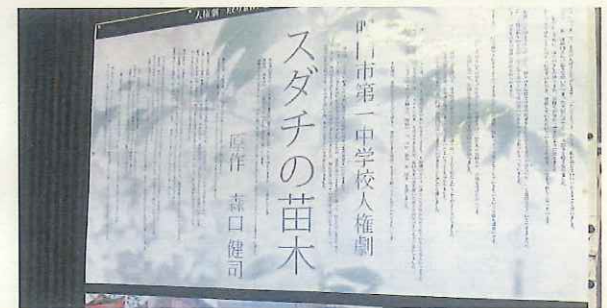


中学校区 人権フェスティバル

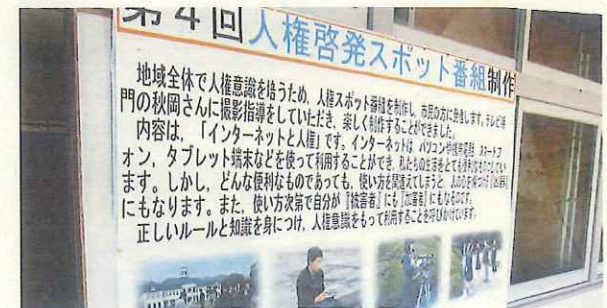


小・中合同教職員決染一揆フィールドワーク

今年度は、市内2中学校の生徒が、アイデアを出し合い、
それぞれの学校で人権啓発スポット番組をテレビ鳴門の協力
下、制作しました。現在、テレビ鳴門で、放映されています。
権尊重のまちづくりへ！中学生の思いをこめた発信です。



鳴門市第一中学校



鳴門市大麻中学校

ご家庭で子どもたちとともに
人権について考えてみませんか！